

7 経済・雇用対策特別委員会における柳下礼子県議の質疑

2016年10月12日

Q．柳下委員

- 1 先端産業創造プロジェクトを展開する中で、県内中小企業をどのように育成していくのか。また、高知県では、ものづくりの地産地消を進めているが、地産地消だけではなく、海外に輸出していく企業もある。先端産業の県内集積を進めているが、県として、将来的にどこを見据えて取り組んでいくのか。
- 2 高知県では全庁的な体制で事業を進めており、成果が出ている。県ではどのように考えているのか。
- 3 自動塗装ロボットについて1件の販売実績があり、現在海外に売り込み中とあるが、ロボットだけを輸出するのか。それとも海外進出まで考えているのか。

A．先端産業課長

- 1 このプロジェクトは、県内だけでなく全国の企業や大学等を対象としており、共同研究などにより県内中小企業が県外の大学の先端的な研究シーズ等に直接触れる貴重な機会を得られる。きっかけ作りも含めて、中小企業の技術力の全体的な底上げにつなげたい。国内での販売にとどまらず、海外への輸出をメインにしていく企業もある。事業化やマーケティングなどをしっかりサポートしていきたいと考えている。
- 2 本県でも全庁的な対応をしており、今年度からプロジェクトを専門的に進める先端産業課を新設した。また必要に応じて、例えば道路や橋りょうを検査するロボットの実証では県土整備部と、高校跡地を利用したロボットの実証フィールドでは教育局と連携しており、今後も全庁体制で先端産業分野を支援してい

きたいと考えている。

- 3 自動塗装ロボットについては、産業振興公社海外支援グループのアドバイザーが海外展開に向けて支援に当たっている。輸出相手国によってクリアすべき課題があるのでJETROなどの支援も仰ぐ予定である。現在のところは製品だけを輸出する予定で、海外に生産拠点を設けるようなことは考えていない。

Q．柳下委員

県では、県内産業の特長を生かして、どの産業をメインに何を売りにしようと考えているのか。

A．産業労働部長

埼玉県の産業を分析すると、いずれも全国的に見て平均的ではあるが、輸送機械いわゆる自動車分野が強みである。知事も発言されているが、かつては電気・電子・自動車が三種の神器であったが、自動車以外は徐々に衰退している。そこで、国の経済産業政策を県として取り組むという考えが先端産業創造プロジェクトである。特に医療イノベーションやナノカーボンは今後の成長が期待できる分野であると考えている。

Q．柳下委員

- 1 医療イノベーション分野における3D内視鏡システムについて、世界最大手の内視鏡メーカーと商談中とあるが、もう少し具体的な状況を教えていただきたい。
- 2 医療イノベーション分野において大学の医学部との連携を行っているのか。

A．先端産業課長

- 1 詳細は申し上げられないが、最新の情報として、世界的に有名な手術支援ロボットのメーカーと接続テストを行い、結果は良好だったと聞いている。埼玉県内で医療機器の製造販売業の許可を持つのは155事業者、製造業の登録をしているのが303事業者であり、ともに全国3位の規模となっている。こうした状況からも医療イノベーション分野を進める意義はあると考えている。
- 2 今年度から開始した3者連携事業では、医療機関のニーズを調査してものづくり企業とマッチングを行い、コンセプトができた段階で製販企業に提案し、売れる医療機器の開発につなげている。今年度は県立小児医療センター、獨協医科大学、東京医科歯科大学のニーズを調査しており、こうした取り組みによって医療機関との連携を図っている。